

(株)ロゴのクリティカルチェーン CCPM/6つのモジュール

(株)ロゴでは、プロジェクトマネジメントを「仕事の段取り術」ととらえました。その上で、従来のプロジェクトマネジメントで欠落していた部分や強化すべき部分を補完・補強し、コンパクトな6つのモジュールで構成しました。

モジュール	ツール	狙い	効用 (意識・行動)	V-7.1 2009
M1 プロジェクト目標	<ul style="list-style-type: none"> ●OSCD (プロジェクト目標) ●SNW (構造ネットワーク) 	<ul style="list-style-type: none"> ●主要なステークホルダー間でプロジェクト目標を正しく共有する ●プロジェクトの全体像(概観)を把握する 	<ul style="list-style-type: none"> ●致命的なミス・モレの防止 ●手直し・手戻りの低減 ●有意味感、全体把握によるやりがいの創出 ●コミュニケーションのための共通言語 	
M2 スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ●CCスケジュール 2点見積り プロジェクトバッファ 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間見積りにバッファを織り込む ・バッファをプロジェクトバッファに集める ・あらかじめリソースの競合を排除したスケジュールをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ●リ・スケジュールリングの解消 ●ひとつの作業に集中できる環境構築 ●スキルセットの把握と達成可能感 	
M3 実行コントロール	<ul style="list-style-type: none"> ●バッファマネジメント(BM) ・振返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・実行中のプロジェクトの状態が見える化する ・プロジェクトに介入するタイミングをはかる良い指標(体温表)を得る ・プロジェクトの教訓を得る 	<ul style="list-style-type: none"> ●プロジェクトコントロールのバラタイムチェンジ ●相互信頼関係の構築、ストレスフリー ●部分最適から全体最適への意識変革 ●プロジェクトマネジャーの二つの誤りの解消 	
M4 複数プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ●シンクロ法 ●フレックス法 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数プロジェクトを効果的に運営する ・リソースマネジメントのための環境を整備する 	<ul style="list-style-type: none"> ●明確なプロジェクトの優先順位付け ●助け合い精神の発揮 ●組織の潜在力の発掘と活用 	
M5 ベースライン	<ul style="list-style-type: none"> ●第1次積上げ案 ●複数案 	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム実力値と要求との差異を分析する ・複数案を策定し依頼主の承認をとりつける 	<ul style="list-style-type: none"> ●逆線表の解消 ●実力値と要求の差異認識、問題把握(本音ベース) ●必要な技術知識の再確認、向学心の喚起 	
M6 プロジェクト・リスク	<ul style="list-style-type: none"> ●特殊要因リスク ●前提条件リスク 	<ul style="list-style-type: none"> ●リスク対応をプロジェクトの計画策定や実行コントロールのプロセスに内包・同時進行させる 	<ul style="list-style-type: none"> ●計画プロセスの繰り返し最小化 ●スリムなリスクマネジメント計画 ●安心、ゆとり、CCPMシステムへの信頼感 	